

5万人超が受講「話す力」を高めるプログラムのアルバ・エデュ、 文京区・教育委員会とプレゼン教育に関する覚書を締結

一般社団法人アルバ・エデュ(東京都文京区、代表理事:竹内 明日香、以下「アルバ・エデュ」)は、2017年から文京区にて導入されている「Speak Up! プログラム」について、2023年3月16日に文京区・教育委員会と「すべての子どもに話す力を届けるプレゼン教育」に関する覚書を締結しましたのでお知らせいたします。



■文京区とアルバ・エデュのこれまでの取り組み

平成29年度に文京区の中学校、1校でアルバ・エデュのプログラムが導入されたことが始まりでした。当時の中教審答申では「2030年の社会と子どもたちの未来」が示されており、新しい未来の姿を構想するうえで、人工知能がいかに進化しようとも、人間の強みとして、「場面や状況を理解して自らの目的を設定すること」「目的に応じて必要な情報を見出し、自分の考えをまとめること」「相手にふさわしい表現を工夫すること」などが示されました。また、日本経済団体連合会が2017年度に実施したアンケートでは、新卒の選考時に重視する要素として、「コミュニケーション能力」が第1位であり、求める人材像では「自分の意見を分かりやすく述べるができる。」という項目が最も期待されているという結果も出ました。

このような背景の中で、学校教育では、各教科等において「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むことが求められていました。そこで文京区では、対話的な学びを意図した授業づくりを進めるうえで、教員が提案する指導モデルに専門家から具体的な助言をもらうことを模索していました。そこにアルバ・エデュの「次世代の子どもたちの将来が心配」「プレゼンで日本を変える」という思いが合致して、取り組みがスタートしました。これまでの文京区とアルバ・エデュの取り組みは以下の通りです。

平成29年度	文京区立中学校1校で実施
平成30年度	特色ある学校づくりの支援と小・中連携教育の一環として、中学校3校と近隣小学校3校でモデル実施
平成31年度	区の重点施策として、発達段階に応じたカリキュラム開発及び幼稚園において試行的に実施
令和2年度～	幼小中(8校園程度)で実施

■文京区長 成澤廣修氏コメント

文京区では2017年から同プログラムを導入しています。まず小規模の公立中から導入し、その後プレゼン教育の必要性の高まりを受け、区の重点施策としてプログラム開発、幼小中への導入を決めました。「うちの子が公開授業で手を挙げているのを初めて見た」と保護者から声上がるなど、内向的な性格だった子どもたちにも大きな変化が出てきています。リスキリングとして地域の人材を活用する取り組みも行っており、今後も新たなカリキュラムの開発などにも共に取り組んでいきたいと考えております。

※上記コメントは2/15官民合同シンポジウムでの発言を書き起こしたものです。

■文京区教育委員会 教育長 加藤裕一氏コメント

文京区では、平成29年度からアルバ・エデュと連携し、「プレゼンテーション能力向上プログラム」に取り組んでまいりました。このプログラムを通して子どもたちが身に付ける力は、生涯にわたって子どもたちを支えるものになります。今後も、この覚書に基づき、教育現場のニーズを捉えながら子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図ってまいります。

■アルバ・エデュ代表 竹内明日香コメント

文京区制77年目が始まる本日、覚書に調印できることに感謝申し上げます。設立来事務所を置き、初のワークショップも出前授業も文京区から。カリキュラム導入や教員研修を始め、大人向け講座受講により区民の皆さまも校舎への出前授業に参画していただくなど幅広くご一緒してきました。これからも区内の子どもたちの話す力、生きる力を育めるよう尽力いたします。令和5年度もよろしくお願い申し上げます。

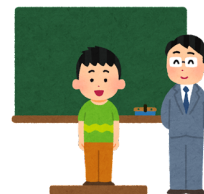
■アルバ・エデュ提供「Speak Up! プログラム」3つのポイント

1.児童・生徒向け授業

自分の意見や思いを「考える」という、プレゼン作りの核となる部分について学びます。子どもたちが自己肯定感や自己効力感を高め、自分を堂々と表現できるようになることを目的に、「考える」ことをもとにして、「どのような伝え方をしたら聞き手の心に響く話ができるようになるのか」「どんな資料の見せ方をすれば自分の伝えたいことが伝わりやすくなるのか」について学びます。

●過去にプログラムに参加した児童・生徒のコメント

発表などをするときは、
周りを見て言い方を変えたり、工夫すれば変わるということ
 がわかった。「考える・深める・選ぶ」が大切だとわかった。
 実際に自分の好きなことをグループで話してみると、
話す楽しさや普段はあまり見ない聞いている人の表情などが見
 れて良かった。クイズでわかった知識を家族や年下の子に話して色々な人に広めて
 くれたらいいと思いました。このように学んだことを生かしていきたいです。



自分でも
「社会を変えられるかもしれない」
 と思うことができてよかった。だから、
「もっと言いたいこと」を選んだりして
 プレゼンテーションしてみたいと思いました。

2. 教員研修

子どもたちを育成するために、教員も「なぜ話す力が今の時代に必要か」「話す上で普通の授業と違う点はなにか」を理解することが必要です。そのため、子どもたち向けの授業と並行して実施する教員研修では、教員が子どもたちのプレゼンづくりを指導する際に、どのような声掛けをするかを学びます。教員の掛ける言葉一つで、子どもたちの自己肯定感は上がり、「もっと話したい」という意欲につながります。

●過去にプログラムに参加した教員のコメント

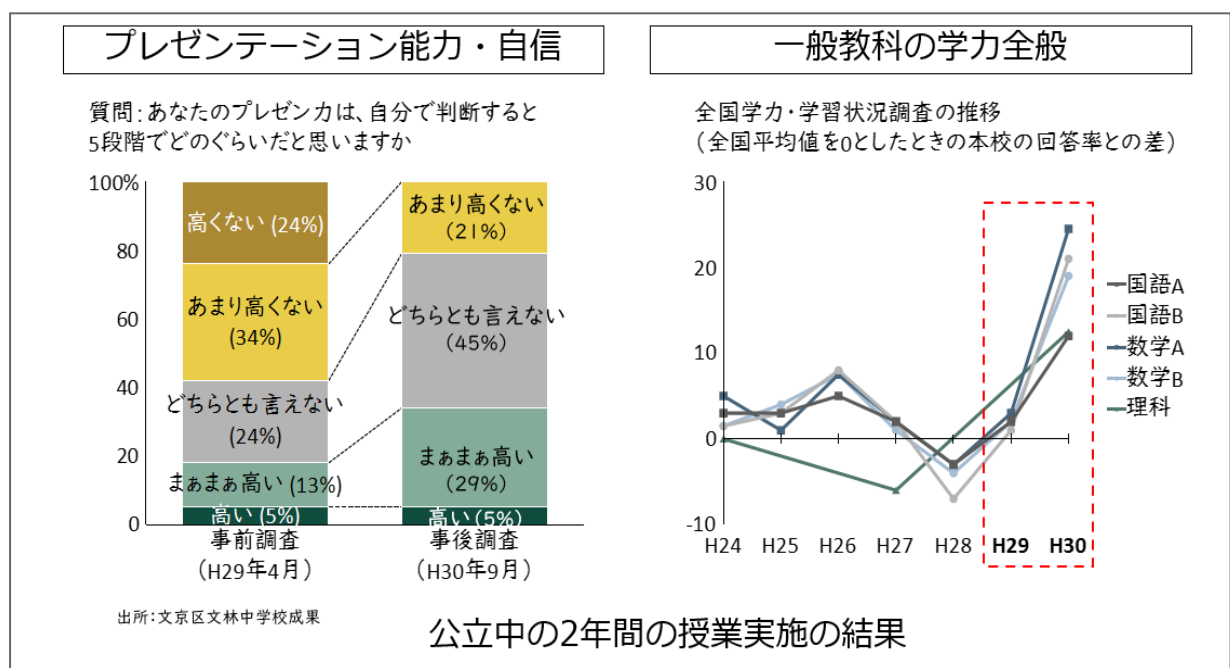
アルバ・エデュのプログラムは、
「子どもの話す力」を伸ばすだけでなく、
「教員の話す力」を伸ばし、
 さらには、
「教員が子どもの話す力を養う力」を
 伸ばすことにも貢献しているのではないかと思います。

時代の変化をととても感じている今日この頃です。
「未来を生きる子ども」
 を育てている教員は、
「これから世界がどう動くか」
 を想像する力が大切だと改めて思いました。



3. プログラムの教育効果

過去にプログラムを実施した研究指定校では、話すことが苦手という子が減り、得意という子が増えただけでなく、一般教科の学力も上昇しました。



■一般社団法人アルバ・エデュについて

アルバ・エデュは、変化の激しい時代を生きる児童・生徒たちが、自己理解を深め自己効力感をもって未来を切り拓いていくために「話す力」を高める教育を全国に広げています。代表理事の竹内が、金融業界で海外投資家と日本企業をつなぐ仕事をする中で、「日本の優れた製品やサービスの良さが伝わっていない」という現実にも何度も直面してきました。社会において必要不可欠とされる「コミュニケーション能力」ですが、そもそも教育課程で体系的な授業を受けることがなく、またコミュニケーションの中でも特に「人の前で話す」こと、特に「数人の前で発表すること」に苦手意識を持っています。

プレゼン力の弱さは文化的な背景もありますが、訓練さえすれば「話す力」は高めることができる能力です。自分の意見を持ち、言葉として表に出し、それが相手に伝わり、認められる—その自己肯定感は一生涯のものとなり、自己の世界を広げる原動力となります。次世代を担う子どもたち、若者たちが「話す力」を育むことは、自分で自分の世界を切り開くために必要な能力であると考え

ています。アルバ・エデュは「話す力」は小さな成功体験を積み上げることによって高めることができるという信念のもと、教室内の心理的安全性をも高めるプログラムを提供しています。

所在地: 東京都文京区音羽1-17-11 花和ビル308号

設立: 2014年12月

代表理事: 竹内 明日香

URL: <https://www.alba-edu.org/>

■代表理事: 竹内 明日香について

東京大学法学部卒業。日本興業銀行(現みずほ銀行)を経て、2007年に独立し海外投資家向け情報発信や日系企業のプレゼン支援を提供して今日に至る。2014年、子どもの「話す力」の向上を目指す(社)アルバ・エデュを設立。教員研修や児童・生徒を対象としたモデル授業を展開。NRS株式会社社外取締役。一般社団法人未来の先生フォーラム理事。公立小元PTA会長。二男一女の母。2022年5月には書籍『すべての子どもに「話す力」を』を出版。

<http://www.eijipress.co.jp/book/book.php?epcode=2308>



<本件に関するお問い合わせ先>
一般社団法人アルバ・エデュ 広報担当
メール: info2@alba-partners.com